



四万十つるの里づくりの会 平成28年度取り組みダイジェスト

平成28年度は地域の方々の協力、セブン-イレブン記念財団や四国クリエイイト協会からの助成を得て、以下のような活動を行いました。「四万十川自然再生事業」に取り組んでいる国土交通省とも連携しながら取り組みました。



取り組みの様子は
ホームページで
公開中！

<http://www.shimanto-tsuru.com/>



平成28年

年間を通じて

ツルのえさ場・ねぐらづくり

【実施内容】セブン-イレブン記念財団の助成金で江ノ村箇所の休耕地を借り上げ、地元農家の方に米を作ってもらい、収穫後にツル類のえさとなる二番穂を残しました。また、ツル類は水深の浅い水域をねぐらとするため、渡来期にえさ場に隣接する田に水を張りました。国土交通省が中筋川の中山箇所と間箇所に整備した人工湿地では、6月に田植機等でイネの苗を植えました。



ねぐらとするために水を張った水田(江ノ村箇所)

6月

夏の「ツルの自然体験学習会」

日時 ■ 平成28年6月15日(水) 10:00~12:00
場所 ■ 四万十市立東中筋中学校、中筋川中山箇所
参加者 ■ 約60名(児童生徒24名、その他スタッフ等)
共催 ■ 国土交通省中村河川国道事務所

【実施内容】当会がツル類の生態や四万十市での行動について説明し、国土交通省から「四万十川自然再生事業(ツルの里づくり)」について紹介してもらいました。その後、子どもたちは、秋にツル類のえさとなることを願って、中山箇所の湿地にイネの苗を植えました。



↓ツル類に関する講義

イネの苗植え↑

8月

環境省主催 平成28年度ナベヅル、マナヅルのワークショップ

日時 ■ 平成28年8月17日(木)、18日(金)
場所 ■ 鹿児島県出水市
参加者 ■ 約60名(ツル類の渡来地となっている地域の行政や保護団体)
主催 ■ 環境省

【実施内容】「出水市でのツルとの共存」と「他地域での新越冬地形成」についての全国的なワークショップに参加しました。グループでの意見交換会では、四国を一括して新越冬地として捉えるビジョンが提案され、当会は「まずは四国内のネットワーク組織が必要だ」と訴えかけました。



9月

平成28年度総会

日時 ■ 平成28年9月30日(金) 16:30~17:30
場所 ■ 中村商工会館(3F 大会議室)
参加者 ■ 22名

【実施内容】例年同様の事業を継続することとなり、飛来状況調査についても、引き続き高知野鳥の会と日本野鳥の会高知支部と協働して行うことが決まりました。役員の交代もありました。



10月

秋の「ツルの自然体験学習会」

日時 ■ 平成28年10月25日(火) 14:00~15:30
場所 ■ 江ノ村箇所、中筋川中山箇所
参加者 ■ 約50名(児童生徒25名、その他スタッフ等)
共催 ■ 国土交通省中村河川国道事務所

【実施内容】ツルを呼び寄せるため、子どもたちに「デコイ」(ツルの模型)の設置を手伝ってもらいました。また、中筋川と樋門の間の段差をなくし、ツル類のえさとなる小魚等が水田脇の用水路まで上れるようにした国土交通省の「四万十川自然再生事業」を紹介しました。中山箇所では、夏の大出水に耐え、無事に実ったイネを確認しました。



デコイの設置→

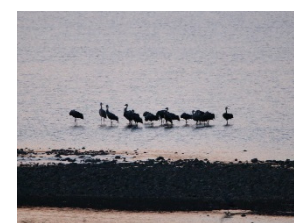
水生生物の学習

ツルの飛来状況調査

期間 ■ 平成28年10月~平成29年2月

【調査結果概要】

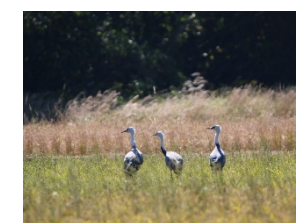
- ・地上での初確認は10月27日でほぼ例年並みでした。最大飛来数は39羽(H28.11.29)と、過去9年間のうちでは多いほうでしたが、観測史上最大数(239羽;H27.11.11)を記録した前年と比べると1/6程度でした。滞在期間は約1カ月と短く、途中で連続して確認できない日があるなど、安定しませんでした。
- ・ナベヅルは、四万十川の砂州をねぐらとし、外敵の襲来に備えて川の水に脚を浸して休んでいました。昼間は主に中筋川流域の耕起後の水田で落穂を食べていました。
- ・ナベヅルは警戒対象(車など)が近づくと、速度にかかわらず警戒し、そういったストレスが重なると飛び去りました。



ねぐらでの様子



車が接近し、警戒する群れ



採餌中も周囲に気を配っている



当では珍しいコハクチョウが中山箇所です約3週間過ごしました。

11月

第8回 四万十つるの里祭り

日時 ■ 平成28年11月26日(土) 10:00~14:00
場所 ■ 四万十市立東中筋中学校
来場者 ■ 約1,000人
後援 ■ 四万十市、四万十川自然再生協議会
協賛 ■ (一社)四国クリエイイト協会

【実施内容】地元の方から「今年はいつやるが?」と聞かれるほどに、地域に親しまれるお祭りとなりました。参加者は、学び、味わい、楽しみながら「ツルの里づくり」に親しみました。



ツルのデコイを双眼鏡で見よう!

渡来状況の説明

ツルの写真・パネル展示

平成29年

1月

ツル・コウノトリフォーラム in せいよ2017

日時 ■ 平成29年1月22日(日) 13:30~16:30
場所 ■ 愛媛県歴史文化博物館(愛媛県西予市)
参加者 ■ 約200人
主催 ■ 西予市、(公財)日本野鳥の会、日本ツル・コウノトリネットワーク、田園ロマンの里づくり推進委員会
後援 ■ 愛媛県、四国西予ジオパーク推進協議会

【実施内容】ツルとコウノトリが飛来する西予市で開催されたフォーラムに参加し、四万十市での取組事例を発表しました。会議では、自然豊かな田園風景をどう守り、活用していくかについて、日本野鳥の会の会長である柳生博氏と西予市長や地元住民、子どもたちが語り合いました。



会報で取り組みを発信! 四万十つるだより Vol. 22 (H29.1.20 発行)

地域の回覧や行事等で配布し、当会の活動を紹介しています。本号では、「四万十つるの里祭り」を特集しました。また、明け方と夕暮れ時のねぐらの見回りや飛来地点の確認・記録など、「飛来状況調査」の調査方法についても紹介しました。